



老舗企業の 挑戦に 学ぶ。

1200年以上続く京都の伝統産業「西陣織」の老舗で、創業以来300年を越える株式会社細尾を訪問し、11代目代表取締役社長 細尾真生氏から、伝統と革新の経営について話を聞くガーナとイラクの行政官。老舗企業ならではの経営手法や技術だけでなく、逆風に負けない信念を持ち続けることの大切さを知る機会となりました。この研修には、その他、コンゴ、エチオピア、マラウイ、モーリシャス、スーダン、タンザニア、東ティモール、チュニジアから行政官が参加し、4週間にわたって、中小企業振興のための経営強化と金融支援について学びました。

ガーナ 国家小規模産業省 地方局 ビジネスアドバイスセンター マリーナさん(写真左)

イラク 産業・鉱業省 産業振興総局 建造資材・産業部 ラナさん(写真右)



競争から、

老舗の過去・現在・未来、継続は力なり。

株式会社細尾 代表取締役社長の細尾真生です。11代目になります。

当社は、京都の上京区にある古い日本建築で、研修員の皆さんには、伝統的なものを作っている、さぞ古臭い考えの企業だと思われるのですが、お話しするのは、最先端の技術や芸術家とのコラボレーションなど挑戦しつづける経営の話です。特に「コラボレーション」ということを強調しています。私たちは、足を引っ張り合って競争をするのではなく、強みを融合させて新しい価値を作り出すことを目指さなければいけません。シェアを取り合う、営業マンを増やす、販売促進を強化する、宣伝を増やす、残業を増やす、利益が出ない、疲れる、この循環からは、よりよい未来は生まれませんから。呉服市場が急速に縮小する危機的状況の中、2005年から本格的に海外展開に取り組み始めました。当初は惨敗続きでしたが、クリスチャン・ディオールから店舗の型布として西陣織を使えないかというオーダーを受け、これに応える150cm幅の織機を一から開発しました。織機と言えば着物幅ですので、西陣織の織れる150cm幅の織機は世界で細尾にしかありません。これをきっかけに、ラグジュアリーブランドショップや国内外のホテルの壁布に西陣織が使われるようになりました。

経営で最も大切なのは、継続することです。世のため、人のため、社会のために役立つ仕事をするからこそ利益が生まれ、事業が継続できます。アート、サイエンス、デザインとさまざまなコラボレーションの中から新しい価値を持つ西陣織を生み出したいと考えています。

今は、山口市の山口情報芸術センターと共同研究し、人工知能AIがプログラミングする西陣織を創っています。どんな西陣織が生まれるか、わくわくする仕事です。ものづくり企業にとっては、先端技術を取り入れるかどうか、今後、大きな差に繋がると考えています。うちのような零細中小企業こそ、先端技術を活用すべきだと思っています。

研修レポート①株式会社細尾



ロングインタビューはこちら
www.prex-hrd.or.jp/



共創へ。

新しいことにトライしないと衰退しかない。

研修レポート②梅乃宿酒造株式会社

奈良県葛城市の梅乃宿酒造株式会社5代目代表取締役の吉田佳代です。

当社は1893年創業。今年3月で126年目になる酒蔵です。

奈良は“清酒”の発祥地。伝統に重きを置く業界です。当社も100年以上日本酒だけを造ってきました。しかし、日本酒を造る寒い時期だけ職人を雇用するスタイルが、時代の流れの中で、若い人に受け入れられなくなりました。当社に働きに来てくれていた岩手県花巻市からの職人さんも高齢化し、人数がだんだんと減っていきました。

このままでは、日本酒を造る技術が伝承できないと考え、地域の若者を年間雇用することにしました。更に蔵人の夏場の仕事として辿り着いたのが梅酒です。梅酒は、日本酒の仕込が終わった5月、6月、7月に実がなり、お酒に浸け込むことができます。一年を通じて職人さんを雇用するのに適したお酒でした。

しかし、梅酒は「おばあちゃんが家で作れる」お酒。日本酒の技術を持つ酒蔵が造るとなると、業界からは大バッシング、「業界の恥さらし」「とうとう梅酒にまで手をだした」と批判を受けたのです。今から14年前のことです。

当社は、喜んでいただけるお客様を見て、これは絶対間違っていないと考え、逆風の中、梅酒を造り続けました。

最近では、日本酒を造る会社が梅酒やリキュールを造るのも普通と考えられるように変わってきました。当社を批判していた会社の中にも、梅酒を製造するところもできています。「今の当り前は次の当り前ではない」と実感しています。

研修員の皆さんには、事業は、今がいい状態であっても、常に新しいことに取り組みないと衰退してしまうということをお話しています。

企業テーマを「新しい酒文化を創造する蔵」とし、他の業界とコラボしたり、海外に拠点を置いたり、いろいろ種まきをしています。将来一つでも収穫できればと願っています。



老舗企業
女性経営者
対談

とにかく前進
あるのみ。

時代を越えて、

上羽絵惣株式会社 10代目の石田結実です。

日本の素晴らしい色と伝統の技術を、世界中に広げていくことが私の仕事だと思っていますが、梅乃宿酒造さんのお酒の色は、子供たちにも伝えていきたい日本の自然の色ですね。上羽絵惣は、京都の下京区に1751年に創業した顔料屋、絵具屋です。今では、日本最古で、260年以上、1200色の日本の色を扱ってきました。1751年というと江戸時代中期の絵師伊藤若冲が活躍したところです。2005年、私が家業に戻った時は、バブル崩壊とともに日本画の市場が縮小していて「廃業」の言葉も頭をよぎりました。ですが、日本の伝統の技術と色を絶やせないと考えた時、家業を守るのが私の使命だと思ったのです。資格はない、勉強は嫌い、この私に何ができるのか？時代のせい、人のせいにはできません。人として、商売人として生まれてきたからには、人様に喜んでもらえるもの、色を通じてお客様をハッピーにする仕事をしよう、と着地点を定めました。そこからは、とにかく人と会って話を聞き、色のことを一から勉強しました。そうして生まれたのが、ホタテ貝殻の微粉末から作られる顔料「胡粉(ごふん)」を使った「胡粉ネイル」です。とにかく前進あるのみでした。このネイルは、刺激臭がなく通気性に優れていることから、ネイルから遠ざかっていた女性にも人気で、日本全国の病院やがんセンターに置いてもらっています。読者の皆さん、若い方に伝えたいのは、「せっかく生まれてきたのだから情熱的に生きたいでしょう。得意技がなくても、想いと願いを持てば、物事はそちらに進んでいく。想いと願いがないと始まらない！」ということです。

待ちの姿勢では
何も変わりません。

生き続ける。

梅乃宿酒造株式会社 5代目 吉田佳代です。

石田社長、今日は、奈良の葛城市まで来ていただいてありがとうございました。当社よりも歴史のある会社の方とお話する機会は、あまりなく、大変光栄です。私も、時代のせいになしたり、人のせいになしたり、待ちの姿勢をとるのは嫌いで、どんどん行動する性格です。逆風にも負けず、信念を持ち続け、行動される石田社長のお話をお聞きしていて、自分と同じ匂いを感じました。待ちの姿勢で、棚からボタ餅が落ちてくるのを待っていても、何も変わりません。考えているだけでは、しんどくなるので、私は、何かあったらすぐ動きます。日本全体でも一人一人がやる気スイッチを入れてどんどん行動すると、もっと前向きな社会になると思います。働くことに悲観的なイメージを持っている若い方も多いようですが、働くのってホントに楽しいですよ！私たちは仕事をしているからこんなに幸せなんだと思います。

上羽絵惣さんのネイルは、和の色で、本当に匂いがなく、塗るとテンションが上がりますね。このゆず酒やみかん酒の色も着色料は一切なくて、本当にきれいな色だと日ごろから思っています。

石田社長は、日本酒は飲まれないそうですが、是非イチ押しのみかん酒を飲んでみてください！ゆず酒10周年でコラボして、ゆず色のネイルとゆず酒と一緒に売りたいですね。

ロングインタビューはこちら
www.prex-hrd.or.jp/

タンザニアの地に、 愛をこめて。



ディギナさんがメルー県の農家を集めて野菜作りの準備を指導している様子。



種の蒔き方を指導している様子。



メルー県で農業開発のための若者のグループを作り、意見交換をする様子。帰国してから作った最初のグループの一つ。



女性グループを結成した様子。

日本の皆さん、研修の成果をみてください！(マサウェ ディギナ シャウリさん)

2017年度「JICAタンザニア地方農業開発研修」に参加したマサウェ ディギナ シャウリさんから帰国後の活動の様子が送られてきました。タンザニアでは「農業開発」が、経済成長と貧困撲滅達成のための国家戦略の一つと位置づけられています。ディギナさんは、キリマンジャロ山のふもとに位置し、野菜栽培が盛んなアルーシャ州メルー県の職員として働いています。この地域では75%以上の方が農業に従事していますが、収穫の時期を考える、販路を開拓するといった売するための工夫はされていません。そのような農家に対して、ディギナさんのような行政官や普及員が、技術普及や販路開拓といった農業普及サービスを提供しています。

ディギナさんは、帰国後、農家を指導したり、新しい方法を試したりする「デモンストレーションプロット」でトマトの堆肥づくりや植替えの指導、女性や若者のグループ活動をリードしています。日本での研修中に、和泉市で活動する農業法人「いずみの里」を訪問した時、女性たちが収入向上のため、味噌づくりなどのグループ活動をしている様子に感激し、「帰国したらまず、10人の女性を集めてグループを作りたい!」と仰っていましたが、それを実行されているのです。ディギナさんは「愛を込めて農家を指導している」そうです。



人が変わる原動力は、 人との出会い。



2017年度「JICAタンザニア地方農業開発研修」に
参加したマーシーさんとPREX国際交流部 小林

研修での収穫は、コンテンツだけではなく、日常にはない出会いと感動。

入局して、もうすぐ2年。一番印象に残っているのは、左のページの農業開発分野の研修です。2017年7月に初めて担当しました。先輩職員から「全部同行してみたら?」と言ってもらい、2週間、すべてのプログラムを研修員とともに過ごすことができました。最終日、研修員のディギナさんから、「あなたは若いけれど、みんなの信頼を得て、リーダーとしてやっていくのでしょうか!これで、あなたもタンザニア人よ」とタンザニアのイヤリングをプレゼントしてもらいました。いつか彼女に会った時、そのようなリーダーになっていたらと思います。

研修員を見ていて、「人が変わる原動力は、人との出会いなんだ」とわかりました。日本に来て、熱意ある日本の社長さんから、経営の苦勞とそれを乗り越えた話を聞いた時、どの研修員も、年齢や国に関係なく、目を輝かせていました。帰りのバスの中で、自分がどう感じたのか、口々に語り合い、感動と理解を自分の中で深めていました。彼らの、帰国後の活動レポートやメッセージからは、その時の感動、訪問先で聞いた社長の言葉が、彼らを動かす心の軸になっていることが伝わってきます。研修員が出会いで受けた感動を胸に成長していく様子を見ていて、これから担当する研修事業での「出会い」を大切にしていきたいと思っています。研修員、先生方、企業、関係者の皆様と精一杯向き合い、小さな灯火をつけられるような出会いのある研修を作りたいです。そして、タンザニアの研修員のフォローアップで現地を訪問し、彼らの活躍を確認したいと思います。

(PREX 国際交流部 小林)

NEWS & TOPICS

今回の特集のテーマは「老舗企業の挑戦に学ぶ」。
途上国の中には一つの事業を継続的に続けることが難しく、老舗企業が少ない国もあります。日本の老舗企業は、伝統を重んじながら一方で常に挑戦しイノベーションを起こしています。PREXは、老舗企業が挑戦を続ける持続可能な企業のあり方について研修員に理解してもらい、彼らにその国の産業振興の軸となる企業を育成してほしいと考えています。

事務局からのお知らせ

「福山ローズ」でお出迎え。



「JICAビジネス実務研修(C)カザフスタン」で広島県尾道市の中小企業栄信産業(株)を訪問。とても素敵なウエルカムボードでお出迎えいただきました！ボードに飾られている花は、「福山ローズ」といって、100万本のバラの街である福山から発信されている折り紙です。とても複雑なので、一つのバラを作るのに早くても20分ぐらいかかります。同社の社長の奥様が作ってくださったそうです。このウエルカムボードを作るのにかけていただいた手間を考えると、そのおもてなしの気持ちに研修員一同感激しました。

「忍者テク」に研修員もびっくり！



「JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(A)」で(株)特殊高所技術を訪問。足場や重機を用いず、高強度のロープや特殊機材を使用して、高所での調査・点検・補修などを安全に行う「NINJA-TECH」の本物の忍者さながらの様子に研修員もびっくり。同社は、現在、モロッコで技術移転を推進されています。

参加者 受付中！

ベトナム人 リーダー育成 研修2018

行動が変われば、 現場が変わる。

「ベトナム人リーダー育成研修2018」。今年は9月に開催予定です。詳細はホームページをご覧ください。
写真は、研修に参加された(株)中農製作所のベトナム人社員と、西島大輔取締役社長です。

日本に身につけた技能や知識で現場を引っ張っていきたい。

この研修でベトナム人社員が安心して任せられるリーダーに成長

意識を変える、PREX

行動が変わる。

PREX presents
ベトナム人リーダー育成研修2018
参加者受付中。



「JICA先進国市場を対象にした輸出振興／マーケティング戦略(A)」で講義をしていただいた(有)セメントプロデュースデザイン金谷勉代表取締役の著書が日経BP社より絶賛発売中です。倒産・廃業のピンチから生き残りの道を見いだした小さな企業の事例を挙げ、生き残りにつながった「考動」を紹介しています。研修では、この本に登場する神戸市の(有)梅香堂の商品開発の事例を紹介いただくとともに菓子工場を見学しました。



JICAカンボジア日本センタービジネス人材育成・交流拠点化プロジェクト「企業家育成研修」に参加したカンボジア、ラオス、ベトナムの研修員11名と各国日本センタースタッフ4名の皆さん。大阪府ものづくり総合支援拠点MOBIOにて。

チヨムリアップ・スオ！
(こんにちは！) ※カンボジア語

PREX NOW第247号(2018年3月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長:岡本 謙
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー